

LEARN WITH ソフトバンク ～魔法のプロジェクト 2024～ インクルーシブ教育 実践事例

事例の活用について

※本事例の知的財産は投稿者に留保されます、使用される際には出典として
「LEARN WITH ソフトバンク ～魔法のプロジェクト 2024 組織名」 を記載ください。

■基本情報

組織名： 埼玉県立越谷西特別支援学校

所在地： 埼玉県越谷市
※都道府県・市区町村

氏名： 佐藤 裕理

■インクルーシブ対応を検討するきっかけとなった児童・生徒（※以下「対象の子ども」と略）について

対象の子どもの学齢 高校1年生

障害種別：
 知的障がい、知的障がいを伴う ASD
 高機能自閉、アスペルガー症候群 読み書き障がい
 注意欠損多動性障がい (AD/HD) 肢体不自由
 聴覚障がい 構音障がい 視覚障がい 病弱
 重度重複障がい その他 ()
主訴 (主な困り) 読む 書く 聞く 見る 話す 記憶する 移動する
 その他 ()

その他補足 作業学習における報告・連絡・相談の場面において、指導者に対して発言するのではなく、「あれ？」などと大きな声を出す注意喚起行動が見られる。口頭でのコミュニケーションは可能であるが、言葉遣いの面で目上の人との会話でも砕けた言葉遣いになってしまう。

■対象の子どもが利用している ICT について

①利用端末（ハード） タブレット PC その他（ ）

②OS Windows MacOS Chrome Android iOS その他

③使用した ICT の機能やアプリを教えてください。複数あれば、ボックスを追加して記載してください。ネイティブアプリ（最初から搭載されているアプリ）の URL は記載不要です。

名称： [メタライフ](#)
 紹介 URL： <https://metalife.co.jp/>

名称： [Google Classroom](#)
 紹介 URL： <https://apps.apple.com/jp/app/google-classroom/id924620788>

名称： [Canva](#)
 紹介 URL：
<https://apps.apple.com/jp/app/canva-%E3%82%AD%E3%83%A3%E3%83%B3%E3%83%90-%E4%BF%A1%E3%81%98%E3%82%89%E3%82%8C%E3%81%AA%E3%81%84%E3%81%BB%E3%81%A9-%E7%B4%A0%E6%99%B4%E3%82%89%E3%81%97%E3%81%8F/id897446215>

④上記の ICT を活用して、対象の子どもの困りをどのように軽減されたかを詳しく記載ください。

パソコンやタブレットで名刺やポスターを作成する作業学習で、報告・連絡・相談はメタバース空間（メタライフ）での実施とし、教員のアバターに近づき、音声チャットで「質問いいですか」と確認してから報告等行うようにしたことで、実際の業務での報告等の方法と適切なコミュニケーション手段が学べるようにした。指導のプラットフォームを Google Classroom にし、指示連絡事項を随時更新してやるべきことを明確にし、見返せるようにした。最後に報告書を作成し、自分でチェック項目を確認してデザインを修正できるようにしたことで、Canva では依頼されたポスター製作を行い、デザインに必要な情報や素材は Canva 内で共有し、他の生徒のデザインを見て参考にできるようにした。

■インクルーシブ対応状況について

① インクルーシブ対応の検討の 児童生徒は、どの範囲まで利用が可能ですか？

教科	<input checked="" type="checkbox"/> 全ての教科で使用可能 <input type="checkbox"/> 特定の教科のみ使用可能
場所	<input type="checkbox"/> 通級等のみ <input type="checkbox"/> クラス限定 <input type="checkbox"/> 学年限定 <input checked="" type="checkbox"/> 学校全体
利用シーン	<input checked="" type="checkbox"/> 宿題 <input checked="" type="checkbox"/> 授業中 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> 定期テスト <input type="checkbox"/> その他 ()

② 周囲の児童生徒が ICT を使用するにあたり、個別の許可が必要ですか？

はい いいえ

■インクルーシブ対応に向けての工夫について

①前問で、「いいえ」と回答された方にお伺いします。環境整備に向けた実施事項/工夫点について記載ください

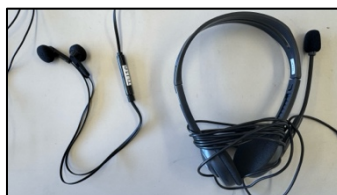
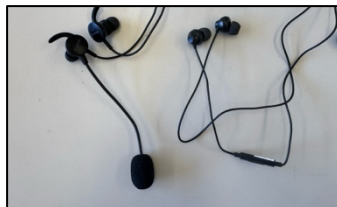
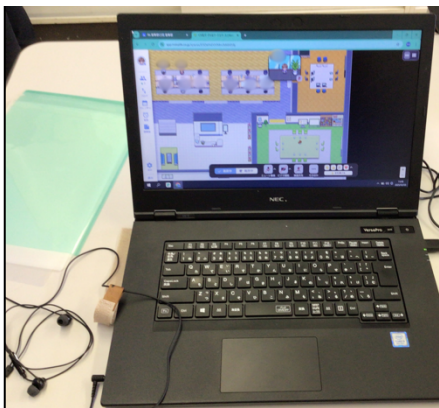
実施事項/工夫点

- ・メタバーズ内で質問する時はどうすればよいか、画面内に表示した（先生のアバターに近づいて会話、または手を挙げるアクションコマンドを押して教師が近くに行く）
- ・報告等の活動が行われるよう、チャット機能は制限した。
- ・タスクをメタバーズ画面内に表示し、デザインの仕様を報告書に示したことで、指示が無くても次に取り組む課題が分かるようにした。
- ・Classroomで報告書を提出する際には、必ず教員に確認しなくてはいけない項目を設けることで、意図的にメタバーズ内で質問に来る場面設定を行った。
- ・画面共有や音声のミュート設定など、生徒の画面操作の補助をするサブの教員を教室に在中させ、適宜その教員にも相談できる体制を整えた。
- ・音声チャットで使用するイヤフォンを3種類（カナル形、インナーイヤー型、ヘッドホン型）から選べるようにし、障害による感覚特性への配慮を行なった。

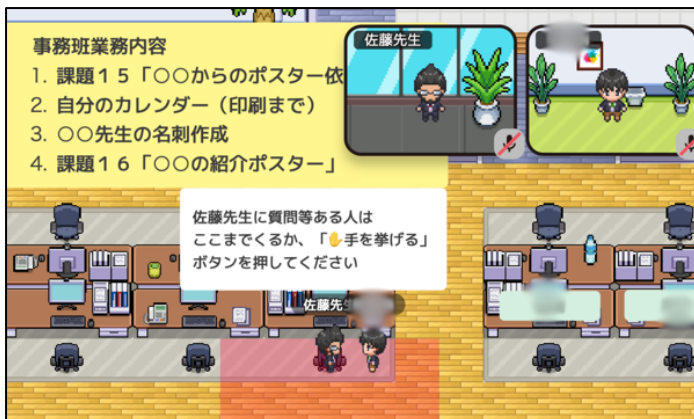
■その他

参考になる写真があれば、こちらに添付してください。

※個人の写真が含まれる場合、事前に保護者の許可が得られているものに限りま。詳細は投稿要綱をご確認ください。



ポスター作成チェックシート (☑をクリックして、チェックを入れてください)	
ポスターの種類	<input checked="" type="checkbox"/> 手洗いポスター <input type="checkbox"/> インフルエンザ予防ポスター <input type="checkbox"/> からだの清潔・身だしなみポスター
Canvaのページ番号	30
チェックリスト	<p>ポスターの要件</p> <p><手洗いポスター> 赤文字以外全てチェックが必要</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 「せっけんで手をあらおう」のようなメッセージがある <input checked="" type="checkbox"/> イラスト①「手にせっけんをつける」がある <input checked="" type="checkbox"/> イラスト②「あわだてで洗う」がある <input checked="" type="checkbox"/> イラスト③「水で流す」がある <input checked="" type="checkbox"/> 「あわあわ手洗いのうた」の画像とQRコードがある <input checked="" type="checkbox"/> その他のイラストを入れている <input checked="" type="checkbox"/> 入れた理由（小学生が楽しめる動物のイラストを入れた） <p><インフルエンザ予防ポスター> どれか一つに☑があればOK</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 「マスクを正しくつけている」イラストとメッセージが入っている <input type="checkbox"/> 「咳エチケット（せきが出る時は、マスクをしよう）」というイラストとメッセージが入っている <input type="checkbox"/> 「手洗い、うがい、消毒」というイラストとメッセージが入っている



■変化や効果について

①対象の子どもにどのような変化がありましたか

- ・注意喚起行動が見られても、メタバース内でのアバターを操作して教員に近づき相談等することができた。画面共有の方法もすぐに覚えたことで、スムーズに聞きたいことを伝えられるようになった。
- ・対面での報告回数よりも頻回相談できるようになり、製品作りの確認が増えたことで品質が向上した。
- ・対面でも報告等をする際の注意喚起行動が減り、「先生」と声をかける回数が増えた。
- ・仕様書を明記したことで、Canvaのポスターデザインの校正回数が減少した。

③対象の子ども以外の児童・生徒や、学校全体にどのような変化がありましたか

- ・作業班の他の生徒も同様の環境で取り組んでおり、同様に報告・連絡・相談することに課題のある生徒も、同様に報告回数の増加と製品品質を向上が見られた生徒もいた。
- ・ボイスチャットでは大きな声を出さないと相手に聞こえないため、声の大きさに課題のある生徒は必然的に少し大きい声を出す練習となった。
- ・教育現場におけるメタバース活用可能性を提示し、不登校の生徒の指導可能性があることが検討され、次年度は不登校の生徒の作業学習参加に向けた取り組みを検討している。